

課題等論点	琵琶湖流域下水道の状況			のぞましい姿	選択肢のメリット等比較		
	施設	組織	財務		一部適用	統合による全部適用	単独での全部適用
<p>流入水量の大きな増加が見込めない中での維持管理経費や建設事業費等の増加[P10～14]</p> <p>冗長性が十分でない中でのベテラン職員退職後の技術水準の確保[P17]</p> <p>下水道事業の特徴[P5～6]</p>	<p>○全国上位の規模[P16]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水洗化人口(9位) ・管渠延長(4位) <p>※(○位)は全国順位</p> <p>○施設・設備は改築更新期へ[P16]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖南中部は供用開始から33年が経ち、耐用年数の50年に近づいている。 	<p>○比較的効率的な組織[P16]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数(11位) ・年間処理水量(8位) <p>※(○位)は全国順位</p>	<p>○比較的効率的な経営[P17]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚水処理原価(円/m³) (64.73/85.4) 維持管理(39.79/59.0) 資本費(29.94/26.4) ・全国平均より低い総費用に占める一般会計繰入金の割合 <p>※(○○/○○)は(本県の値/全国平均値)</p> <p>○決算状況[P18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益190億 ・費用191億 ・実質収支(収益-費用+前年度からの繰越-次年度への繰越)13億の黒字 <p>○地域間分析[P18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理区ごとの維持管理決算では、湖南中部、高島では黒字、湖西、東北部は赤字 ・高島では累積赤字(一般会計からの借入)が1億 	<p>のぞましい姿</p>	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同一組織による環境政策や公共下水道にかかる行政事務と下水道経営にかかる事務の一体的推進[P24] 	<p>【全部適用に伴うメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一部の事務を除き広範な権限が管理者に付与されて、意思決定の迅速化等が可能。[P25] ○職員の任免、勤務条件、その他職員の身分取扱いにかかる権限が管理者に付与され、専門性の高いプロパー職員の配置などが可能。[P25] ○経済性に対する職員意識が向上。[P25] ○内部管理事務の効率化[P26] ○システム統合が可能なら効率化[P26] ○より専門性の高いプロパー職員の確保や能力向上が可能[P27] 	-
					<p>留意事項</p> <p>-</p>	<p>○公営企業の広域化等の動きに与える影響(選択肢の限定)[P27]</p>	-
					<p>コスト(経費・事務増量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コスト低[P27～28] ・企業会計による経理、財産管理 ・出納、会計事務 ・システム運営経費 	<ul style="list-style-type: none"> ○コスト高[P28～29] ・企業会計による経理、財産管理 ・出納、会計事務 ・システム運営経費 ・嘱託職員、臨時職員、謝金支払事務等 ・入札・契約 ・職員の任免、身分取扱い ・労働基準法等事務、組合対応 ・連絡調整、議会对応 ・事務所移転等経費 ・事務所の整備経費 	<ul style="list-style-type: none"> ○コスト中[P29～30] ・企業会計による経理、財産管理 ・出納、会計事務 ・システム運営経費 ・嘱託職員、臨時職員、謝金支払事務等 ・入札・契約 ・職員の任免、身分取扱い ・労働基準法等事務、組合対応 ・連絡調整、議会对応
	<p>議論の進め方①[第1回部会]</p>	<p>議論の進め方②[第1回部会]</p>	<p>議論の進め方③[第2回部会]</p>				
	<p>課題等について琵琶湖流域下水道の特徴を念頭に置きながらその影響を議論</p>	<p>①の議論をベースに事業の特徴も含めて、あるべき姿を議論</p>	<p>あるべき姿から、課題等への対応に対する選択肢の効果(○、△、×)を議論</p> <p>上記を含めて、各項目の優劣について議論</p>				
	<p>【分析・のぞましい姿】</p>		<p>併せてメリット等の整理等にも意見聴取</p>				